

「日本における英米文学 映像をめぐる」 (第3回日欧比較文化研究会、武蔵野短期大学、平成9年7月)

最近の文学作品のビデオ化の傾向を分析し、英米文学と映像をテーマに扱った。特に、大学の講義において、どのような活用方法が有効なのか、教材としてビデオやレーザーディスクの利用法について発表した。特に、語学の授業ではなく、英文学概論や米文学概論といった文学の授業での利用法について、実際の授業での実例をしめしながら発表を行った。特にシェイクスピア作品やヘミングウェイ作品の映像から、それぞれの文学作品の持つエッセンスを抽出した。これは映像の編集の仕方が重要な鍵を握る。作品の解釈と映像の編集が作品の紹介に占める重要度は高い。原作から映像化への過程では、映画監督による解釈が加わってくることを考慮に入れなければならないことを発表した。